嘉麻市の財政状況と今後の見通し

令和7年度一般会計決算の状況

財政健全化と新たなまちづくり
市民説明会

（単位：千円）

歳入総額 (A)	歳出総額 (B)	形式収支 (A)－(B)=(C)	翌年度繰越財源 (D)	実質収支 (C)－(D)
28,844,700	28,390,244	454,456	182,602	271,854

歳入の中には、前年度からの純繰越金と基金繰入金が入っています。
これらがなければ、年度内の歳入は少なかったはずであるため、歳入総額から差し引きます。

歳出の中には、基金積立金が入っています。
これは、積み立てなければ年度内の歳出は少なかったはずであるため、歳出総額から差し引きます。

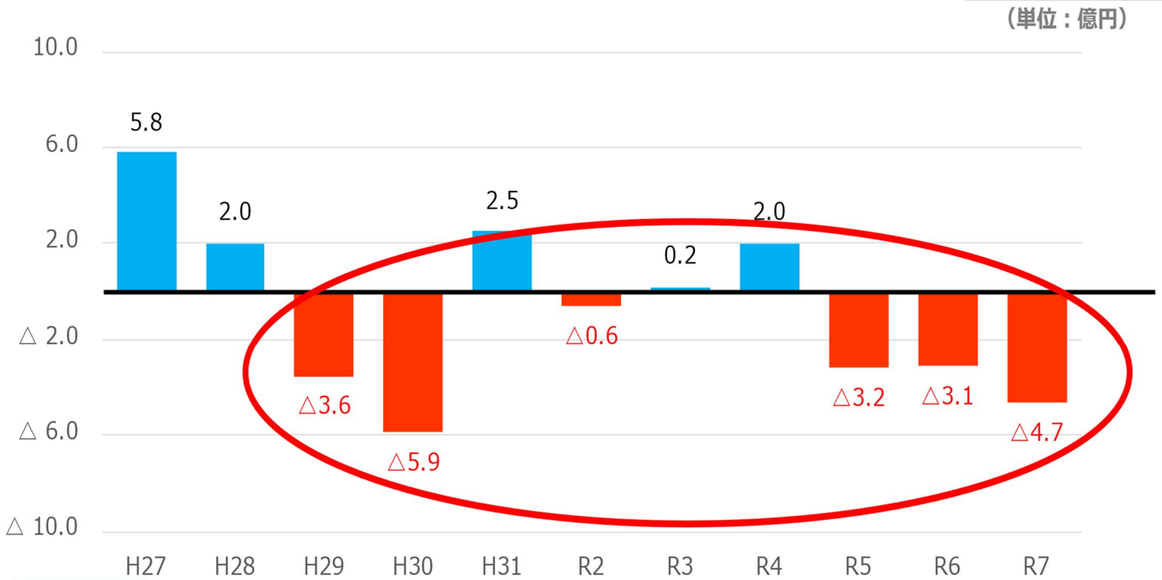
うち純繰越金	うち基金繰入金	うち基金積立金
140,422	1,001,957	402,649

◆実質的な収支

単年度実質歳入総額 (A)	単年度実質歳出総額 (B)	形式収支 (A)－(B)=(C)	翌年度繰越財源 (D)	実質単年度収支 (C)－(D)
27,702,321	27,987,595	▲285,274	182,602	▲467,876

実質単年度収支の推移

財政健全化と新たなまちづくり
市民説明会

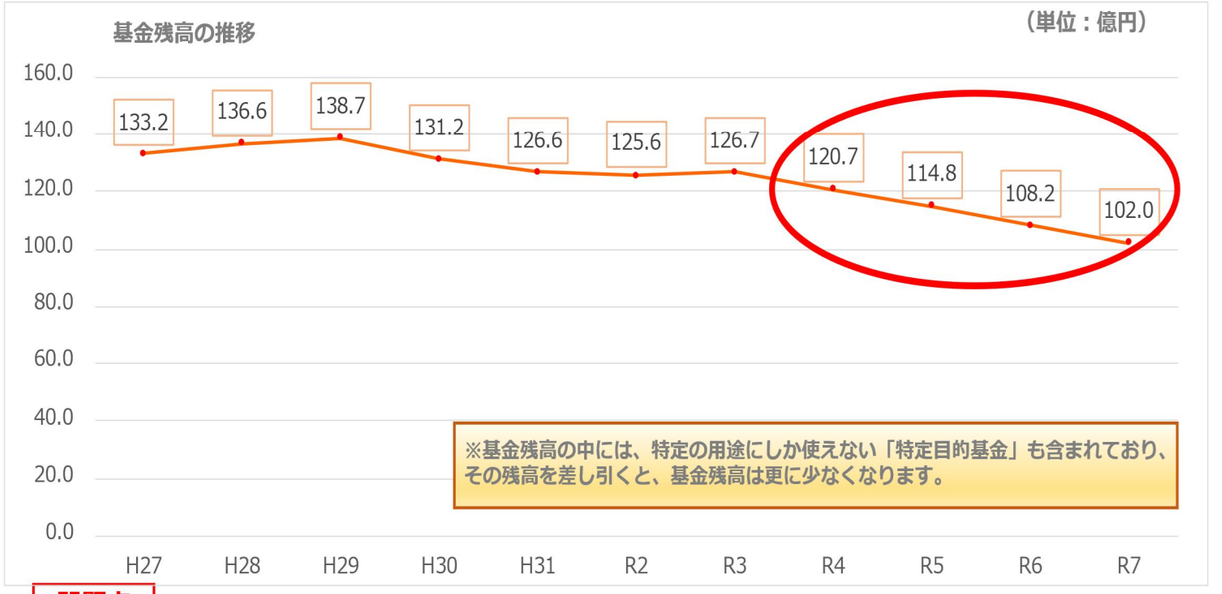


問題点

基金を繰り入れなければ、表面上の決算収支を黒字に保つことができない状況です。
この状況は、ここ数年で生じたものではなく、平成29年度以降、継続的に赤字が生じており、嘉麻市の財政は赤字基調に転換しています。

基金（貯金）残高の推移

財政健全化と新たなまちづくり
市民説明会

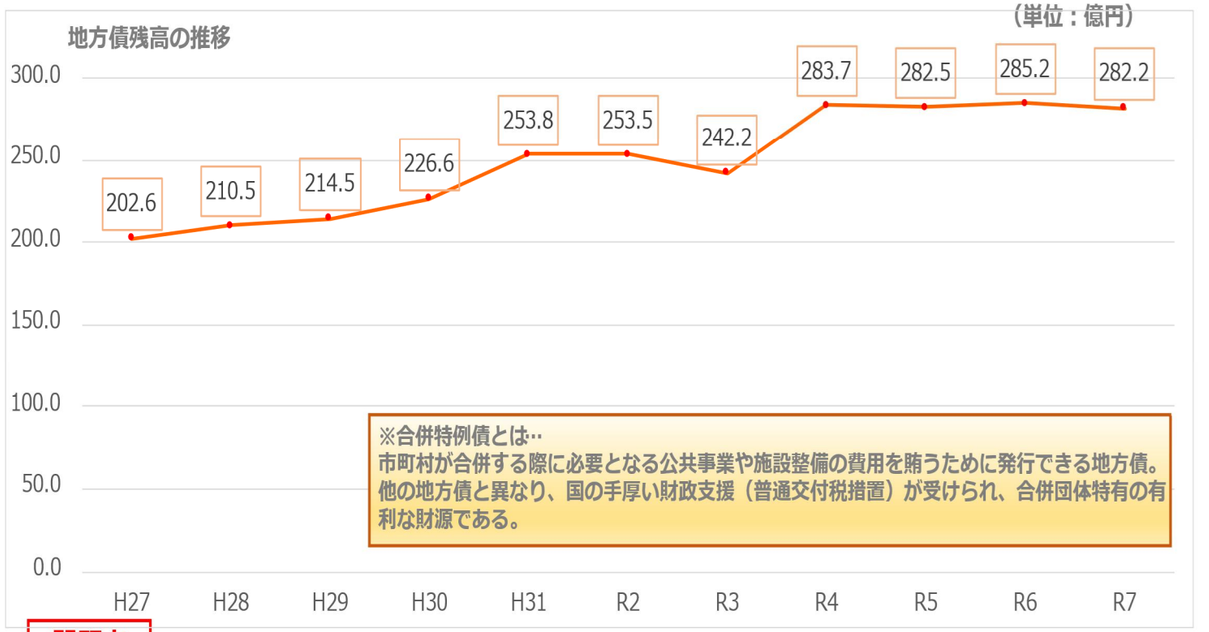


問題点

基金（市の貯金）残高については、繰入れにより令和4年度以降年々減少しています。基金が枯渇すると、財源不足に対応できず、市の支出を抑制せざるを得ず、サービスの低下は免れません。

地方債（借金）残高の推移

財政健全化と新たなまちづくり
市民説明会



問題点

地方債（市の借金）残高については、平成27年度以降年々増加しており、今後数年間は横ばいに推移する見込みです。これは、合併特例事業債の活用期限を迎える令和7年度までに大規模改修等の事業が集中した影響によるものです。

現在の財政状況に至った要因は…？

○短期・集中的な投資的事業（ハコモノ改修・建設）の実施

合併後に計画的に実施されるべきであった投資的事業を、合併特例事業債の活用期限である令和7年度末までに短期・集中的に実施した。

➡ **減らない借金**

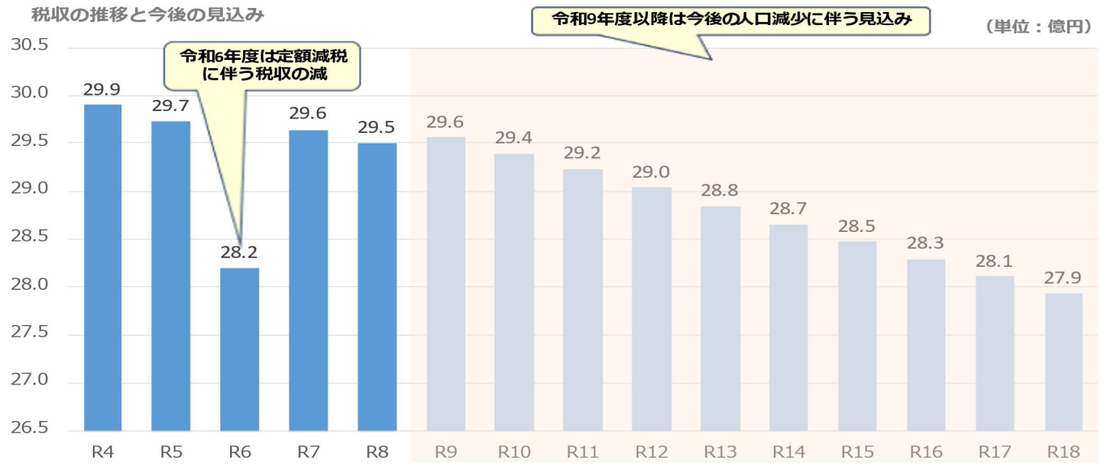
○公共施設適正配置の取組の遅延

合併後の人口や財政規模に合わせて、施設の統廃合が行われるべきであったが、ほとんどが廃止されることなく供用されている。

➡ **・減らない施設の維持管理経費**
・物価高や施設の老朽化により、逆に増加

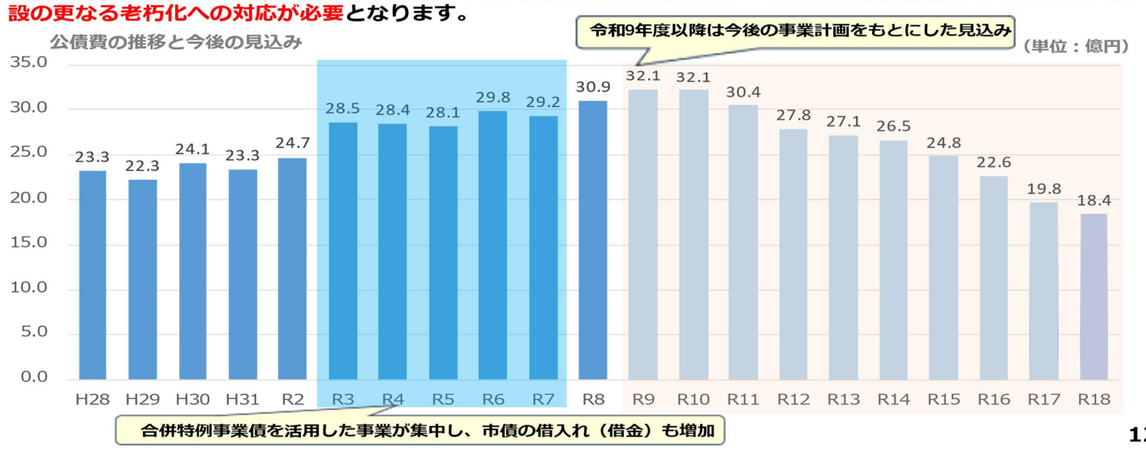
税収の推移と今後の見込み

税収は、30億円弱を維持していますが、**人口減少に伴い徐々に減少していく見込み**です。



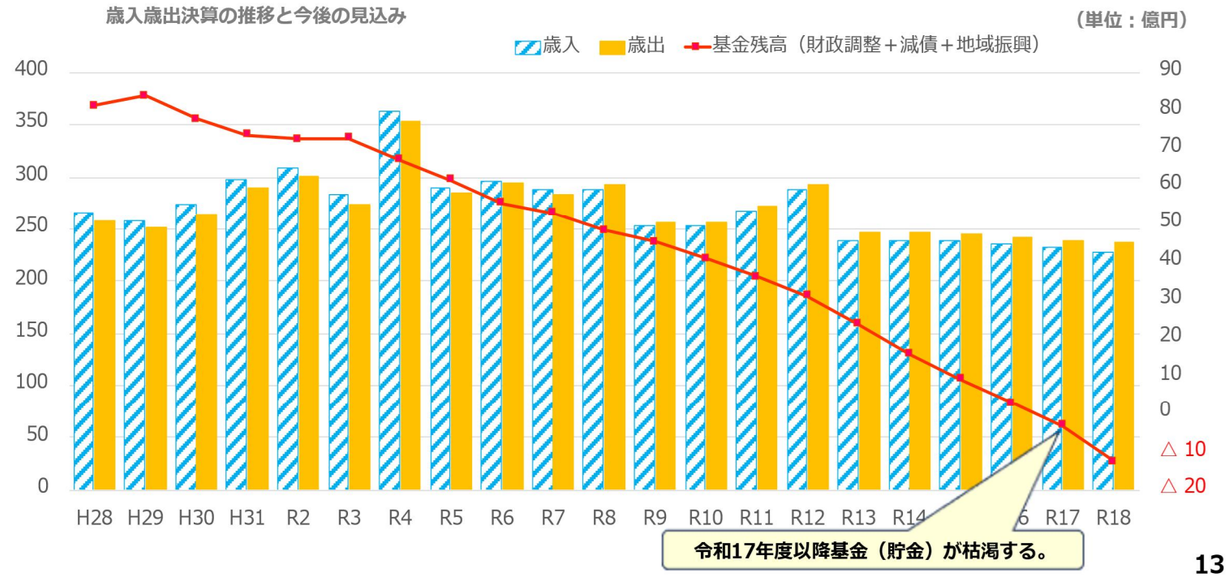
公債費の推移と今後の見込み

令和2年度までの公債費（借金の返済金）は、20～25億円で推移していました。しかし、庁舎建設事業及び義務教育学校整備事業の影響により、**令和8年度には30億円を超える見込み**となっており、**今後数年間は25～30億円で推移する見込み**です。これまで実施してきた**大規模改修等により、一時的に公債費は減少するものの、施設の更なる老朽化への対応が必要**となります。



歳入歳出決算の推移と今後の見込み

これらを踏まえた今後の見通しによると、令和17年度以降基金が枯渇し、現状の市民サービスを維持することが困難な状況となります。 **⇒ 事業の取捨選択が必要です。**



持続可能な財政運営への見直しが急務

1．事業の見直し

市独自で実施している事業などをはじめ、全ての事業をゼロベースで検証し、「選択と集中」を徹底し、必要な施策へ資源を集中します。

2．公共施設の見直し

合併前の旧市町で所有していた公共施設を維持したまま。
人口が減少していく中、今後も同じように全てのハコモノを維持していくのは不可能です。
人口や財政規模に見合った施設保有量へ適正化します。

3．歳入（収入）の確保

若い世代が市外へ流出することなく、市外から移り住みたい魅力ある市とするためにも、収入確保に係るあらゆる可能性を模索します。

市の財政状況に応じた財政運営への転換が急務

出前講座などのお問い合わせ先

本庁舎３階　財政課　TEL４２－７４０３